

高退教

岡山

第 1 4 5 号

2016年4月

岡山県高校・障害児学校
退職教職員の会
〒703-8258

岡山市中区西川原 255 番地
岡山県教育会ビル 3F 岡山高教組気
付

TEL (086) 272-2245
Fax (086) 272-2242

目 次

現代版関ヶ原の戦い 「改憲選挙」は初の市民革命となるか	岡山高退教会長 萱 栄次	1
野党候補一本化する —市民の願いが実った画期的な合意—		2
岡山高退教支部別「春の交流会」		5
【備南】『源氏物語』に隠された真理、奥深さひも解く	綾野 保晴	6
【岡山・旭東】身体もぼかぼか、元気もらえる交流会	大西 淑江	7
【備西】 今まで知らなかった「湊町」玉島を探訪	清水 親義	8
【美作】 真庭バイオマス発電所 里山文化復活に期待	草地 浩典	9
【備北】 草木染めと阿曾周辺史跡散策	藤原 洋平	11
体を動かして、みんなスッキリ！春の恒例行事「健康体操教室」	井上 俊清	12
退職後の新たな人生を楽しむ！（その2）	定広 輝海	13
事務局だより		
14		

現代版関ヶ原の戦い 『改憲選挙』は初の市民革命となるか

岡山高退教会長 萱 英次

私たちが、今最も関心があるのは、夏の参議院選挙です。総理は「憲法改正」を争点にすると明言しています。昨年、あれだけ多くの国民に「戦争法強行は憲法違反」と反対されたのに……。現政権による憲法違反はこればかりではありません。秘密保護法の強行採決しかり、その国民への説明を求めた国会開催の拒否しかり、沖縄の地方自治権剥奪など、すべて憲法違反の行為と言えます。

今回の選挙は、政府与党とその補完勢力にたいして、昨年の国会前デモをおこなった若者たちの運動が原動力となって実現した市民・野党連合との戦いと言っても過言ではありません。

それにしても、現在の与党は異常です。今まで、国民の声をこれほど無視した政権はありません。いやいや、無視ならまだしも、最初から国民は眼中になかったのかもしれませんが。

そればかりではありません。これほど、国民を欺きだます政権もありません。最近のことだけでも、国会では TPP 問題で、自党の選挙ポスターや公的な選挙公報ではっきりと「断固反対」と書いているのに、安倍総理は「断固反対と言っていない」というのです。交渉経過資料の要求にも、内容が全く読めない黒塗り資料しか提示しませんでした。これでは、国会でのまともな議論は不可能と言うほかありません

この異常な状況を一日も早く解決し、立憲政治にもとづく民主主義と平和な社会を創るため、日本における初めての市民革命とも言うべき選挙結果を実現したいものです。

野党候補一本化する —市民の願いが実った画期的な合意—

岡山高退教副会長 小林 軍治

はじめに

4月21日、岡山市内のホテルで参院岡山選挙区の野党候補を一本化するために、政策協定書（資料1）の調印式が行われ、民進党公認の黒岩健太郎氏を統一候補にすることで合意しました。

式には「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求めるおかやまいっぽんの会」（略称おかやまいっぽん）の大坂圭子共同代表、民進党岡山県総支部連合会に柚木道義代表、日本共産党岡山県委員会の石井ひとみ委員長、社会民主党岡山県連合会の福島捷美代表らが出席しました。

市民が待ちに待った「国民的大義に立った歴史的、画期的な内容で合意」が実現しました。ここでは、今回の一本化実現に大きな役割を果たした「おかやまいっぽん」の会について報告します。

設立までの経緯

この会は2015年9月19日に安倍自公政権が行った安全保障関連法案（戦争法）の「成立」を受けて、岡山県内でも「じっとしておれない。なんとかしなければ。」とこの法案に反対する声を上げた人々が集まり、2月28日に設立しました。会の中心メンバーは、岡山市九条の会連絡会（略称 岡山市九条の会）、ハシワタシ、ママの会などです。

【資料1】

第24回参議院議員通常選挙岡山県選挙区

政策協定書

私たち、安保法制の廃止と立憲主義の回復を求めるおかやまいっぽんの会（称：おかやまいっぽん）と野党3党は、昨年来、安倍政権が行う政治、特に憲主義を否定し平和主義を破壊する政治に反対して運動をすすめてきました。

私たちは、この間広がったおかやまいっぽんをはじめ、一人ひとりの「いち」（個人の尊厳）が守られる政治、憲法の三大原則を守る政治を求める声にたえて次の2点の政策について合意します。その実現のために岡山県民と野の統一候補として候補者の一本化を行うことを合意しました。この統一候補共通政策を主要政策として公約に掲げ、当選後は任期満了までその実現に向けた職責において全力をつくすことを確認しました。

私たちは、情勢に合わせて一致する共通政策の範囲を広げていくためにひきつぎ努力し、この合意を第一歩として統一候補の勝利のために全力をあげるのです。

【共通政策】

- 1、2014年7月1日の集団的自衛権行使容認の閣議決定を撤回する
- 2、2015年9月19日に「成立」した安全保障関連法制を廃止する

2016年4月21日

安保法制の廃止と立憲主義の回復をもとめるおかやまいっぽんの会

共同代表 大坂 圭子 印

民進党岡山県総支部連合会

代表 柚木 道義 印

日本共産党岡山県委員会

委員長 石井ひとみ 印

社会民主党岡山県連合

代表 福島 捷美 印

候補予定者

黒石健太郎 印

1月14日、岡山市九条の会は、昨年12月20日に結成された「市民連合」の趣旨に賛同し、岡山でも共同の運動を進めるための懇談会を開催しました。

その後ハシワタシなどと共同で呼びかけ、「2016年参院選市民協力懇談会」を5回（第一回・1月24日、第二回・2月7日、第三回・2月14日、第四回・2月21日、第五回・2月28日）にわたって開きました。

この懇談会には、国政選挙で野党共闘を応援しようと考えて、ママの会、東日本大震災が起ころおかやまへ避難・移住した人、小さな声を上げようと立ち上がった人、学者、宗教者など様々な人が集まって、今の政治を変えるためには何をすべきか協議しました。

その結果、2月28日に「設立趣意書」（資料2）を作成し、会を設立しました。趣意書の文言は、できるだけわかりやすい表現にすべく練り上げました。

〈資料2〉

おかやまいっぽん設立趣意書

第1 わたしたちの思い

- 1 はじめに 2 「おかしい」と思っていること
- (1) 憲法とは何か―立憲主義― (2) 憲法の3つの原則
- (3) 安保法制が立憲主義違反であること
- (4) 安保法制を「可決」した過程に問題があったこと

3 わたしたちが目指すもの

第2 活動の目的

- 1 集団的自衛権行使を容認す 2 他国が攻撃されたときに日本が自衛権を行使できるとする)閣議決定の撤回
- 2 2015年9月に「成立」した安保法制の廃止

第3 活動方針

わたしたちは、第2に書いた目的を実現するために、次のような活動をします。

- 1 わたしたちの声と思いを政治の場に届けるための働きかけ
- 2 わたしたちの声と思いに共感する人の輪を広げるための活動
- 3 わたしたち自身が学び深めるための学習会や交流会の開催

3月7日の記者会見

会は3月7日、岡山市勤労者福祉センターで記者発表と会見を行いました。会見には、会の共同代表3人（榊原、大坂、宮本）と事務局2人（伊東、小林）が参加しました。取材は、新聞社7社（山陽、中国、時事通信、毎日、読売、赤旗、社会新報）とテレビ3社（NHK、RSK、KSB）、それに、選挙ジョッキーの座間宮ガレイさんなどです。伊東さんの司会で進行し、多くの質問が出されるなど、熱気に満ちたものとなりました。



榊原さんは、設立趣意書の説明をし「政治は自分たちで変えられる、選挙で実現できるということを伝えたい」と語りました。大坂さんは、母親の立場から「市民のみなさんに伝えたいこと」を用意し、ゆっくりとした口調でしつかりと話しました。宮本さんは、政治家及び政党へ訴えとして「5野党合意を歓迎している。岡山でも市民合意で一本化したい。」と述べました。会の今後について伊東さんは、「市民の側から提案し、民主主義をつくり直さなければならない。」とし、私は「市民が政治に積極的に関わられるような運動にしたい。」と強調しました。

各政党への要請行動

3月9日に共産党、社民党へ、13日に維新の党（高井事務所）、民主党へ、それぞれ要請行動に行きました。提案内容は、①趣意書の第二の活動の目的への賛同、②岡山の四野党が候補者を一本化し、選挙協力をする事、③おかやまっぽんと情報交換や意見交換の場を継続的に設けることです。各党から提案について賛同するとの回答をいただきました。

会としては、②について、候補者を擁立している民主党、共産党に対して、中央での五野党合意に基づいて早急に話し合っ欲しいと強調しました。同時に、会として、仲介の労を含め、一本化のために積極的に協力したいと話しました。

おわりに —これからが本番—

候補者の一本化が実現し、やっと戦いのスタートに立つことができました。これからが本番です。

岡山高退教の会員は、現役時代に「教え子をふたたび戦場に送らない」と憲法・旧教育基本法にもとづいて平和教育にとりくんできました。退職後は、地域九条の会などに所属し憲法九条をまもり、生かす諸活動に参加しています。多くの会員は、日本国憲法とともに人生を歩んでいると言っても過言ではありません。

それだけに、安倍自民党政権の憲法破壊の暴走は、許すことができません。自らの人生をかけて、立憲主義を回復し、民主主義・平和主義を守るために、野党統一候補の勝利をめざして奮闘しましょう。



趣味 + 文化 + 歴史 + 地域 + 健康 + 語らい = 元気 —岡山高退教支部別「春の交流会」—

高退教各支部恒例の春の交流会が、下記のとおり開催されました。



備南支部

【とき】3月23日（水）

【場所】くらしき健康福祉プラザ

【内容】藤原斌さんの「源氏物語講
一

岡山・旭東支部合同

【とき】3月24日（木）

【内容】1 健康体操をご一緒に
2 自然素材で工作を
3 歌声、交流（近況報告）

備西支部

【とき】3月25日（金）

【内容】西爽亭（国登録有形文化財）か
らスタートして、湊町（みなとまち）
玉島を探訪。

美作支部

【とき】4月4日（月）

【場所】真庭市

【内容】「真庭バイオマス発電
所」を訪ねて。

備北支部

【とき】3月27日（日）

【内容】草木染めと阿曾周辺史跡散策

各支部の交流会の様様について、記事を
寄せていただきましたので、ご紹介しま
す。

【備南】『源氏物語』に隠された 真理、奥深さひも解く

綾野 保晴

3月23日(水)、暑くもなく寒くもない丁度良い気候の中、備南支部「春の交流会」が「くらしき健康福祉プラザ」で開催されました。例年、日曜日の開催でしたが今年は平日の水曜日、駐車場の空き場所を探すこともなく、会場周辺は落ち着いた雰囲気でした。

開会時間の12時30分をすこしオーバーして参加予定者17名が揃ったところで昼食。昼食後の記念写真撮影、講演。講演の後には近況などを語り合い交流を深めました。



講演は、藤原斌さんの「源氏物語」のお話。

1971年(26歳)から当時40歳代の主婦たちの要請を受けて倉敷市児島で「古典講座」を開始。1990年から「源氏物語講座」を開始、16年半をかけて2006年、源氏五十四帖を読了。現在も児島での第2回目の講読、玉野市、岡山市妹尾でも継続中というお話から始まりました。

源氏物語が生まれる歴史的環境なども織り交ぜながら、源氏五十四巻の中身についても語っていただきました。お話の内容は、ここではうまく紹介できませんが、語りは流暢で、音楽を奏でるよう。源氏物語に隠された真理、奥深さをひも解いていく姿は、まさに「源氏物語」の語り部の姿。一瞬たりとも退屈はなく、気持ちのいい充実した時間を過ごすことが出来ました。



出席者の鴨川先生の感想がとても嬉しくて、ここに紹介します。

『現在の学校教育の中では、古典を「通読」ということは全くない。「通読」は学習者にとってすごい財産となる。藤原斌さんの長年にわたるこの取り組みに敬意を表す。センスあるレベルの高い講演でした。』



【岡山・旭東】身体もぽかぽか

元気もらえる交流会 大西 淑江

退職して5年、今はだんだんと手がかかるようになった母の世話が生活の中心。前日に人生初のすっぽかしをし、落ち込んでいたときお誘いをいただいた。島田先生にお会いできるのを楽しみに参加しましたが、帰りにはまた来年も参加しようと思いました。



何故って？当日は風が冷たく花冷えでした。それが、最初の健康体操でぽかぽかに。難波欽子先生の開脚にもびっくりぽんでした。井上先生の寝起きの体操も不断の努力が大切だと知らされました。



次は中学卒業以来半世紀ぶりの工作でした。見本を参考にあれこれ悩んでいると隣では絵画が趣味のS先生、流石構図から取り掛かられていました。

お昼は豪華なお弁当。午後の交流ではパソコンでラインをされている方とか、4世代8人家族や3世代7人家族で、退職後の夢はしばらくお預けで孫育てをされている方々、また、体力づくりの結果9歳も実年齢より若いと言われた方、大相撲を楽しまれている方、白内障の手術をされてよかったり、不具合だったりとか、他の支部の交流会にも積極的に参加されている方など多方面のお話を伺い、皆さん前向きに生き生きと退職後の生活を送られていらっしゃると思いました。

残念ながら母の迎えのため、中座しましたが帰りの上り坂、強い風に押し戻されながらも立ちこぎで帰ることができました。

母のことがありいつも参加できるわけではありませんが、行けば元気がもらえるので、次回が楽しみです。欲を言えば、電車で行ける西川原で開催があっても時にはありがたいかな？

準備や道具の手配・運営など大変だったと思います。本当にありがとうございました。

3月24日操山里山センターでの交流会はまた参加したくなる内容でした。



【備西】 今まで知らなかった 「湊町」玉島を探訪

清水 親義

好天に恵まれた三月二十五日、二十名の参加者（備西支部以外の難波娃子さんと河原和子さんにもご参加頂きました）を得て、備西支部の交流会が開かれました。今年は武田芳紀、石井まこと両氏のお骨折りで、湊町（みなとまち）玉島を探訪、今まで知らなかった玉島の姿に接し、学ぶべきことの多い一日となりました。

探訪は西爽亭からスタート。西爽亭（国登録有形文化財）は備中松山藩に仕えた玉島の庄屋である柚木家の旧宅です。藩主をお迎える御成門（おなりもん）を持つ邸宅ですから、構えからも造りからも格別の風格が感じられました。この日は当代御当主柚木爽一郎さんにご案内頂くという幸運を得ました。西爽亭は、鳥羽・伏見の戦いの後、玉島に帰還した熊田



恰（くまだあとか）が、多数の部下の命を救わんとして自刃したところでもあります。

西爽亭を出てからは、岡部透さんにガイドして頂き、徒歩で移動。最初に訪れた羽黒神社（写真）は、埋め立てによって現在の玉島の原型を作った水谷勝隆（松山藩藩主）によって建てられたもので、急な坂を登って境内に着くと、実に見晴らしが良く、玉島を見渡しながら玉島の歴史を聞くには最高の場所でした。



最後に訪れたのが、菊池酒造と玉島味噌醤油さん。菊池酒造は、地酒「燦然」と、木村式自然栽培米で作られた「奇跡のお酒」で有名なメーカーです。酒米と普通のお米とは全く別物で、丈が二メートル近い「雄町」の姿を見て、一同驚きの声を上げました。「お酒を買いたかったのに時間的余裕がなくて諦めた」という愚痴を言ったのは私だけではなかったようです。

玉島味噌醤油さんでは、江戸後期からの伝統の上に、時代の変化を取り入れながらも、あくまで本物を造り続ける気概と誇りを感じる熱いお話が聞けました。甘酒にも感謝！



最後は良寛荘で、昼食と交流の楽しい一時を過ごしました。虹之家香月（にじのやかつきこと石井まこと）さんによる落語もあって大いに笑い大いに盛り上がりました。

交流会の中で後藤治子さんが、熊田恰とは違う形で人々を救った関藤藤陰（頼山陽の愛弟子）について語られました。黒船来航の頃は老中阿部政弘の側用人。福山事変の時は、身分を越えて長州軍との和睦を成し遂げた人物です。藤陰伝たる「茅原の瓜・四方の波・水上の杯」の三部作を、私は引き込まれて三日で読みました。

膨大なる史料ひもときて『関藤藤陰伝』三冊を十余年かけて著しし栗谷川虹 後藤治子

【美作】真庭バイオマス発電所 里山文化復活に期待

草地 浩典

4月4日（月）美作支部の交流会に21人が参加した。今回は木質バイオマス発電で注目を集めている真庭市にある真庭バイオマス発電所(中島浩一郎社長)を訪ねた。



同社は今までかえりみられていなかった地域資源の間伐材、製材端材などのいわゆる未利用材を有効利用しての発電では全国で最大級の規模である。出力10,000キロワットで、約22,000世帯の家庭をまかなえると言われている。この電力は「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」を利用して電力会社に販売されたり、地域への電力供給も担うことを目指している。これらの未利用材を1トン当たり5,000円程度で会社が買い取るにより、林業の関係者や木材産業の拡大が図られるのをはじめ、未利用木材の買い取りから発電までの全工程で新たな雇用が増大しひいては中山間地域の活性化がはかれるという相互関連効果が期待されることになる。

集積場にトラックで次々に搬入される材を細かく破碎する作業に目を見張った。バイオマス発電の説明をうけたあと全工程を案内していただいた。初めて見た壮大な工程に圧倒された。近年日本の林産業などは衰退し農山村の人口流出に歯止めがかからず過疎化に伴い共同体の崩壊が言われて久しい。かつて我が国には美しい森と人間との豊かな共生関係が成り立つ里山文化があった。このバイオマス発電や集成材の取り組みは今後その復活に大きな期待をいだかせるものの1つだと感じた。



真庭バイオマス発電所を率いる中島社長は「木材の未来を岡山から、木材の未来を生かし世界をつなぐ」をモットーに日本のみならず世界を舞台に活動されている。その原点は学生時代の多くの優れた師や友人との交流を通じて体得した「物事を歴史的観点から大局的に捉える」という理念であるという。スケールの大きさとバイタリティを感じた。また、説明をしてくださった社員の方々の自信に満ちた明るさも印象的であった。

昼食は人気の酒蔵レストラン「西蔵」でとり、その後短時間ながら自己紹介をかねて交流を行った。9条の会の取り組みの報告と年金制度に関する報告もいただいた。いずれも今後のわれわれの生活に深くかかわりのある課題である。各人がそれぞれ自身に納得する生き方するように努力されていることが感じられた。それが元気に暮らす秘訣なのであろう。高退教をこえて参加を呼びかけたところ3人の参加をいただき有難かった。なお、交流会のいい案があればご連絡ください。

ところで、最近大変腹立たしく、残念に思うことがある。以前なら問題視されたり辞任に追い込まれたであろう言動があまり追及もされず、「なあなあ・・・」「そんなに追求しなくても・・・」などですんなりと済まされていることがあまりに多いと感じるのは小生だけではないと思うがどうであろうか？



【備北】阿曾房の草木染め体験と 目から鱗の周辺史跡散策 藤原 洋平



3月27日(日)午前10時に鬼ノ城山の麓「阿曾房のお昼ご飯屋」に集まって備北支部交流会がスタートしました。

今回は他支部からの参加がなく参加者8名とちょっぴり寂しい交流会になりましたが、企画して頂いた幹事の土井先生、中田先生のお蔭で内容の濃い充実した交流会になりました。

午前中の草木染め体験では阿曾房スタッフの丁寧な指導のもと、みなさん熱心に制作していました。私も思い通りにはいかないけれど久しぶりにモノ作りの楽しさを思い出した次第です。



作品乾燥を待つ間の昼食休憩。「阿曾房のお昼ごはん屋」と言うだけあって、工房もさることながらご飯もヘルシーながらボリュームたっぷりとても美味しくいただきました。





昼食後は中田先生の案内で周辺の史跡めぐりをしました。たたら鑄造跡から穴観音へ。高退教の歴史探訪の仕掛人中田先生の生き字引のごとく豊富な知識、史跡解説のおかげで新たな発見、私にとっても目から鱗の地元散策になりました。心配された天候にも恵まれ充実した史跡めぐりができ予定通り午後3時に解散しました。



体を動かして、みんなスッキリ！ 春の恒例行事「健康体操教室」



半田山の桜が満開、花曇りの4月3日の曜日、高退教の春の恒例行事「健康体操教室」が開かれました。

岡北保育園遊戯室を借りて行われた会場には高退教会員や指導者の難波さんの知り合いなど9人が集まりました。2時間近く真向法体操やストレッチ運動を行ったのでうっすらと汗をか

き、参加者全員スッキリ！

二階にある遊戯室からはサクラ満開の半田山植物園が丸見え…体操が終わったら早速近所のコンビニでお弁当を仕入れ、連れ立って花見に行った人たちも…。

次回には、もっともっと多くの方の参加を期待しています。気軽においでくださいね。
(井上俊清)



退職後の新たな人生を楽しむ！（その2）

定広 輝海

我が家の家業(?)である米づくり野菜づくり等は、どちらかと言うと仕方なく始めた事でしたが、自分の意志で退職後に挑戦してみたい事がありました。それは、子ども達に日本の伝統文化である”将棋”を普及することです。

私は高校生の頃から将棋の魅力に取りつかれ、現役の時には将棋部の顧問として、多くの高校生（女子を含む）を相手にしてきました。彼らとほぼ毎日放課後過ごした時間は、その後の彼らの人生に少なからず影響を与えている、と度々感じてきたからです。

「思ってたが吉日」で退職後すぐに、日本将棋連盟の普及指導員の資格を取ろうと決意し、倉敷の大山名人記念館に週1回通い始めました。約1年で受験資格を得て、年1回東京と大阪の将棋会館で行われる”ペーパーテスト”とプロ棋士による面接にも合格して、晴れて日本将棋連盟公認の普及指導員（全国に約700人いる）として活動することができるようになりました。早速名刺もつくり、地元の小・中学校を訪問して、主に教頭先生に将棋クラブの開設を訴えて回りました。



現在行っていることは、地元の高松公民館での毎週日曜日の将棋講座（約10人）、小・中学生の将棋大会での審判、大安寺中等学校での部活支援等です。この内最も刺激を受けているのが、大安寺中等学校での指導です。非常勤講師並みの手当をもらっていますが（他はほとんどボランティア）、毎週木曜日の放課

後、中1から高3まで10人ぐらいが集まり（部員は20人以上いる）、熱心に対局したり、プロの棋譜を並べたり、私に挑戦したりと、すごい集中力で学ばされています。私の棋力は、免状は5段ですが実力は3段位で、部内最強の生徒（高2で中国大会・全

国大会へ進んだ) とほぼ互角の勝負です。夢は中学・高校での団体戦で”全国優勝”することですが、数値目標は特に掲げず、のびのびと活動しています。(つづく)